

JELA NEWS

ジェラ ニュース 第32号 2013年12月1日発行 発行責任者 森川 博己

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入▶

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ、はっきり言っておく、私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」 マタイによる福音書 25章35節～36節、40節



JELA ワークキャンプを経験して

2001 年からはじまった JELA のワークキャンプ。これまでの 140 人の参加者は、笑いあり、涙あり、感動ありの日々を過ごし、心も体も成長して帰ってきました。ある人はキャンプを通じて献身を決意し、またある人は教会のリーダーとして活躍しています。JELA では毎年アメリカ、隔年インドとカンボジアでワークキャンプを実施しています。年齢・人数制限がありますが、健康に自信のある方ならどなたでもご参加いただけます。ぜひあなたも参加してみてください。(2 ページに続く)

【この号にはこんな記事が】

JELAワークキャンプを経験して ……2～3 第10回世界の子ども支援チャリティコンサート報告 ……4 私を通して神さまの愛が伝わるように(山田麻衣さんブラジル・リポート) ……5 韓国・米国とともに取り組む難民の受け入れ(東京円卓会議レポート)……6 イエス様が祈りを重ねてくださった(リラ・プレカリア) ……7 寄付者一覧ほか ……8

JELA ワークキャンプを経験して…

今回は 2001 年からはじまった JELA のワークキャンプにスポットをあてます。2003 年アメリカ・ワークキャンプがきっかけで献身をして伝道師として奉仕している関川美樹さん(日本基督教団伝道師)と、大々的に JELA のワークキャンプ同窓会を企画・実施してくれた森田哲史さん(ルーテル田園調布教会員)に原稿をお寄せいただきました。

JELA では毎年ワークキャンプを実施しています。一部年齢制限がありますが、健康に自信のある方ならどなたでもご参加いただけますので、ご興味のある方はご連絡をいただければ幸いです。

伝道者となるきっかけを与えてくれたアメリカ・ワークキャンプ

神様からいただいた賜物を分かち合うために

日本基督教団自由が丘教会
伝道師 関川美樹

●ワークキャンプの思い出

10 年前の 2003 年夏、私はオハイ州で行われた 2 週間の「グループ・ワークキャンプ」に参加しました。その時私は 16 歳で、日本基督教団の教会で信仰告白をして二年経っていました。16 名の青年と 4 名の引率者とともにホームステイし、その後ゼインズビルの高スクールで行われたキャンプに参加しました。このキャンプに参加したきっかけは、ルーテル教会の牧師である叔父からの誘いです。キャンプには同じ歳の

従兄と、その教会に通う女の子も一緒に参加しました。キャンプでの記憶は今でも鮮明に残っています。ホストファミリーと過ごした時間、ホームパーティー、町のフェスティバル、動物園、庭にいたホタルやウサギ。キャンプでは「ダイビング・ディープ」というテーマのもと、6 人 1 グループで家の修繕の奉仕活動もしました。夜には、手をつないで祈るデボーションも経験しました。

●二つの賜物

私はこのキャンプの経験を通して、神様から二つの賜物を頂きました。それは、キャンプ以来今でもずっと仲良くしている大切な友人です。時々会い、近況など色々な話をします。もう一つは、今私が歩んでいる伝道師という道です。私はいま、日本基督教団自由が丘教会の伝道師とミッションスクールの聖書科の講師をしています。もともとは高校卒業後、音大に入学しチェンバロを学びました。その中で、神様と教会に仕えるためには自分にとって何が一番ふさわしいのか、問い続けていました。そうした葛藤の中で、伝道者として歩む道が開かれました。

●伝道者として歩む道

日本にはクリスチャンが 1%も満たない現実、オハイオ州の教会の方々も嘆いていました。親になったらぜひ、自分の子どもたちに信仰を伝えて欲しいと言っていました。その日本の中で私は神の愛を知らされている者です。神様が主イエスを私たちに送ってくださり、十字架と復活によって罪から救ってくださった、その神の深い愛を知らされているからこそ、その賜物を自分ひとりのために取りのけておいてはならないと思いました。神様から頂いているそれぞれ

の賜物を分かち合い、互いに支え合わなくてはなりません。私と同じように、神の愛を必要としている人が日本にはたくさんいます。その愛を奉仕という形で人々と分かち合う経験をこのキャンプでしました。神の愛の中で生かされていることに喜びをもって、アメリカと日本の人々が一緒に奉仕活動をしました。その経験は、私が伝道者となって教会と神様に仕えるという、そのきっかけになったのです。16 歳のときには、将来自分がどの道に進むかということは見えていませんでした。けれども 2 週間という短い旅の経験を通して、聖霊の働きによって神様は、私を伝道者として日本の教会や学校で神様の恵みを分かち合うための道具として用いてくださっています。このことに深く感謝し、これから先も、主イエスに従い伝道者としての道を歩んで行きたいと思います。



現在の関川さん(イスラエルにて)

JELA が全面バックアップ！ パワー UP した同窓会に

ルーテル田園調布教会
森田哲史

8 月 16、17 日の 2 日間、日本福音ルーテル大岡山教会を会場に過去のアメリカ・インド・カンボジアのワークキャンプ参加者を対象とした同窓会が開かれ、30 人が参加しました。

●開催の経緯

これまで JELA の三つのワークキャンプには、合計約 140 人の参加があり、そこでの経験は参加者一人ひとりの信仰の礎となっています。当時の熱い気持ち、信仰に立ち返ろうと、アメリカグループワークキャンプに参加した人を対象に、2009 年の 1 月に最初の同窓会を



ワークキャンプに参加した関川さん

開催しました（JELA ニュース第 18 号掲載）。

この度、4 年の沈黙を破り同窓会が帰ってきました！今回はインド、カンボジアのワークキャンプの参加者も加えて規模を拡大。さらに、JELA の全面バックアップにより、パワーアップした同窓会となりました。

●プログラム

前回と大きく異なる試みとして、外部講師を招いての講演会を実施しました。講師は、NPO 法人「ルワンダの教育を考える会」の創立者であり、理事長を務められているカンベンガ・マリールイズ氏。ルワンダ共和国出身のマリールイズ氏から、ルワンダ内戦の体験を語っていただきました（写真下）。内戦での壮絶な体験や悲惨さ、そんな中にも神様の愛が示されたことなど、私たちの胸に突き刺さる講演でした。講演後の質疑応答でも多くの質問の手が上がり、予定の時間をオーバーする盛況ぶりでした。（マリールイズ氏の経歴や「ルワンダの教育を考える会」の詳細については、「ルワンダの教育を考える会」ホームページ <http://www.rwandaa-npo.org/> をご参照ください。）



●今後の取り組み

4 年ぶりの同窓会としての活動でしたが、今後は何年かに一度集まるだけでなく、普段から連携を取り、定期的に企画を立ち上げられればと思います。例として、マリールイズ氏の居住地が福島であることから、震災被害の復興支援にも携わっておられるので、今後、同窓会としても協力して、行動を起こせればと思います。

アメリカ・ワークキャンプ 2014 参加者募集

以下の要領で参加者を 5 ～ 10 名前後募集します。申込期限は 2014 年 3 月末日（必着）です。

* 従来締め切りを 1 月末日にしておりましたが、現地との調整が取れ、2 か月余裕を持たせることができるようになりました。

- ◆ 派遣期間：2014 年 7 月 23 日(水)～ 8 月 6 日(水)
- ◆ 内 容：ペンシルバニア州(またはその近辺の州)でのホームステイとワークキャンプ(家屋修繕、聖書の学び等を通して参加者の信仰的・人間的成長を促すプログラム)に参加。
- ◆ 参加費用：23 万円
パスポート・ビザ取得費用、海外旅行保険費用、派遣確定者説明会(東京・恵比寿、J E L A の予定)と出発・帰国時の集合場所(成田空港)から居住地までの交通費や、前泊・後泊する場合の宿泊費用については、上記の参加費とは別に個人負担となります。
- ◆ 問合せ・申込用紙請求先：
JELA アメリカ・ワークキャンプ係り
住所：150-0013 渋谷区恵比寿 1-20-26 日本福音ルーテル社団
電話：03-3447-1521 / ファクス：03-3447-1523 / E-mail: jela@jela.or.jp
- ◆ 選抜方法：2014 年 3 月末日までに到着した申込書の中から派遣者を決定し、4 月中に結果を申込者に連絡します。

<注意事項>

!2014 年 8 月 1 日現在の年齢が 14 歳～ 20 歳の方が応募できます。

" どなたでも参加できますが、聖書を学び話し合う時間が毎日あり、すべての行事に積極的に加わることが求められます。

#数 名のスタッフが日本から同行し、霊的・語学的面で参加者をサポートします。

\$ 派遣確定通知受領から出発までの間にキャンセルされる場合は、その時点までに発生した費用をいただくことがあります。また、新型インフルエンザの蔓延等、諸事情により日本からの派遣を中止する場合があります。JELA からキャンセルする場合は、払込み済みの参加費はご返却します。

%渡 航にはパスポートが必要となりますので、お持ちでない方、更新が必要な方は、派遣確定通知受領後速やかに取得手続きを行ってください。

■同窓会参加者の感想

2 名の参加者の感想を紹介します。

「今回、ワークキャンプ同窓会に参加して、共に過ごした仲間との再会や他国での参加者の話を聞けてとても有意義な時間を過ごせました。やはり、他国で苦難や喜びを分かち合ってきた仲間は、どんなに離れていても絆で結ばれていると改めて感じる事ができました。また、ルワンダ内戦の講演では、過去の歴史を知らないことには後世に伝えられず、あった現実そのものが消えてしまうかもしれないという怖さも感じました。だからこそ、今回お話を聞く事で、遠い国に行動しに行くことは中々できないけれど、今ここでできること、それこそが『祈り』なのだと思います。幹事の方、支援してくださった JELA の皆さん、ありがとうございました。楽しかったです。」

(インド・ワークキャンプ 2013 参加
ルーテル大岡山教会 沼部真奈)

.....

「ワークキャンプから 10 年以上が過
ぎても、こうして主にあって多くの仲間と
繋がりを持てることに心から感謝でし
た。あの時の経験が何にも代えがたい
財産であることを再確認しました。更に
多くの次の世代とこのキャンプを分かち
合いたいと願っています。この同窓会か
らまた新たに遣わされて、与えられた場
所で自らの役割をはたしたいと思いま
す。」

(アメリカ・ワークキャンプ 2002、
2003 参加 日本基督教団聖ヶ丘教会
菊地茉莉 [旧姓：近藤])

第 10 回「世界の子ども支援チャリティコンサート」報告

JELA は 5 月 25 日から 7 月 21 日にかけて、全国 10 教会(静岡、神戸、長野、松本、保谷、岡崎、刈谷、清水、富士、神水)を会場に、第 10 回「世界の子ども支援チャリティコンサート」を開催しました。演奏は昨年好評だった上野由恵さん(フルート)と新井伴典さん(クラシックギター)に今回もお願いすることができました。また、はじめての会場が 5 カ所(静岡、長野、岡崎、刈谷、富士)あり、すばらしい音楽と共に、より多くの人に JELA の活動を紹介する機会が与えられました。

来場者数は延べ 630 人にのぼり、寄付金総額(チャリティ CD 売上を含む)は約 86 万円になりました。寄付金は助けを必要としている世界の子どものために用いられます。会場を提供していただいた皆様、ご来場してくださり寄付を捧げてくださった皆様、そして協賛団体の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。皆様のご協力とご支援を心より感謝申し上げます。

2013 年度チャリティコンサート協賛団体

三井不動産リアルティ株式会社 / 株式会社ハリファックスアソシエイツ / シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社 / 株式会社西村建築設計事務所 / 有限会社リフォーム・イケ / 野村證券株式会社 / 株式会社マイスターエンジニアリング / 本郷学生センター / 伊達工業所
(順不同。ご支援ありがとうございました。)



■5月25日(土)午後2時 日本福音ルーテル静岡教会(ひかり礼拝所)



■6月29日(土)午前10時 日本福音ルーテル岡崎教会



■5月26日(日)午後1時半 日本福音ルーテル神戸教会



■6月29日(土)午後4時 日本福音ルーテル刈谷教会



■6月1日(土)午後2時 日本福音ルーテル長野教会



■6月30日(日)午後2時 日本福音ルーテル清水教会



■6月2日(日)午後2時 日本福音ルーテル松本教会



■7月7日(日)午後1時半 日本福音ルーテル富士教会



■6月9日(日)午後1時半 日本福音ルーテル保谷教会



■7月21日(日)午後1時 日本福音ルーテル神水教会

JELA チャリティCD

讃美歌フルート名曲集 **Amazing Grace**



2000 円(送料別)

CD 購入で社会貢献を!

電話 03-3447-1521 JELA チャリティ CD 係まで

私を通して神様の愛を伝えたい

ブラジル・サンパウロから山田麻衣です。ブラジルでの生活に慣れました。今後は身の安全を守りつつ、見聞を広げ、また、出会ったひとりひとりと深く知り合っていけるように、私自身の心をもっと広げていく必要があると感じています。人と人とのつながりが生み出すものは本当に大きいので、教会に留まりすぎずに出かけて行き、私を通して神様の愛が伝わるように、歩んでいきたいと思っています。教会でも、人々の交流と同時に、御言葉を語る機会を設けることができないかと考えています。

慰霊祭はエキクメニカイ！

この夏、リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレで行われた「先没者慰霊祭」に参加しました。この慰霊祭は、ブラジル人のお坊さん Joaquin Monteiro 師（日本の駒澤大学にも留学していた）の読経、日系2世のカトリック神父湯川丈一師のミサ、そして、プロテスタントとして徳弘浩隆牧師（JELC 宣教師）が礼拝をするという3本立てで行われました。とてもエキクメニカルな集いでした。

ミカ幼稚園に助っ人登場

私が毎週木曜日に奉仕で通っているミカ幼稚園に助っ人が与えられました。ブラジルに赴任したばかりの駐在員の奥様が JELA からサンパウロ教会を紹介され、「ボランティアがしたい」と礼拝に来られたのです。現在、私と一緒に日本語教室を行っています。日本語教室では、会話の勉強ばかりではなく、日本のじゃんけんなど、ゲームを取り入れています。嬉しいことに子供達はゲームが気に入ったようで、日本語教室の後も、よく遊んでいると先生方から報告がありました。また、来年からプログラムとして日本語のクラスを設定したいとのことで、手伝ってくれないかと言われました。日系

の幼稚園ですが、日本語の学習は難しいので、貢献できたらと思います。

秋（ブラジルでは春であが）はイベント盛りだくさん

ルーテル・サンパウロ教会バザーを皮切りに、日伯交流音楽の夕べ、教会を会場にした「がん予防講演会・無料診断キャンペーン」など、秋はイベントが盛りだくさんでした。教会バザーでは内容を工夫し、「食バザー」に力を入れました。持ち帰りの可能なメニューを増やし、私も地元熊本の郷土料理「いきなり団子（サツマイモと餡子を小麦粉の生地で包んで蒸したもの）」を作りました。九州出身の方には喜んでもらえました。

記入の手伝いなどをしましたし、検査に向けて申込者リストをパソコン入力するなどして奉仕しています。「教会として、心の平安だけでなく今を生きる体の健康のためにも奉仕をします」というメッセージは、集まった人達に十分伝わったと思います。

今後の活動について

引き続き、ポルトガル語の礼拝の充実に向けて頑張ります。特に賛美の充実に力を入れます。教会外の人々との交流を深め、教会に招きたいです。また、ジアデマ集会所との交流を活発にして、青年伝道を進めていきたいと思っています。ファヴェーラ（貧民街）在住の

ブラジル人教会員 Luiz（奏楽奉仕者）の家庭訪問も何度もして、地域の青年たちの知り合いも増えました。クリスマスに向けて何かできないか考えています。焦らないように神様としっかり会話しながら過ごしていきたいと思っています。JELA とその支援者の皆様、いつも支えていただいております。



教会のバザーで 中央が山田さん

日伯交流音楽の夕べでは、ブラジル音楽の専門家 坂尾英矩（ひでのり）さんをゲストに迎え、私もサクスを演奏しました。バザーとは違った方に教会にきてもらういい機会になったと思います。

がん予防講演会では、当初予定していた 70 名の定員を超す 130 人以上の方が教会に集まりました。ブラジル人の死因の第2位は「がん」です。新聞にも掲載され、人々の関心も高かったのだと思います。この催しは、日系キリスト教連盟の協力のもと、近隣のがん専門病院（A.C.Camargo）とルーテル教会の共催で実現しました。がん予防についての講演会の他、無料の健康診断が受けられるということもあり盛況だったのだと思います。申込用紙は 200 枚があったという間になくなり、私も日系人の方々の

ブログ：Meu nome é Mai !!
<http://maiinbrazil.blogspot.jp/>



韓国・米国とともに取り組む難民の受け入れー東京円卓会議レポートー

認定NPO法人・難民支援協会 渉外部 小川 昂子

はじめに

去る9月6日に、JELA ミッション・センターにて「難民をどのように受け入れていくか(難民の社会統合)」をテーマに円卓会議を開催しました。この会議は、お互いの難民受け入れ実践から学びあうことを目的に、難民支援協会(JAR)が、韓国ならびに米国の難民支援団体と協力して行っているプロジェクトの一環で、国際交流基金日米センターより助成を受けています。今回は、そのプロジェクトにおける最初の大きなイベントであり、各国の難民支援の現場で活躍する方々を、韓国から6名、米国から2名お迎えしました。日本からは、当事者である難民の方、国会議員(武見敬三参議院議員、中川正春衆議院議員、山内康一衆議院議員)や政府関係者、UNHCR、研究者、難民の雇用主の方々、さらには在日米国大使館の方、難民支援NGOも参加し、総勢約40名の参加者で活発な意見交換が行われました。まずは、韓国と米国の難民受け入れの取り組みについて以下で簡単にご紹介し、円卓会議の様子を報告させていただきます。

韓国における難民保護

1992年に難民条約に加入した韓国は、1993年に出入国管理法(以下、入管法)を改正し、難民認定制度を導入しました。日本の制度を模して制定された韓国の難民認定制度は、日本と同様に入管法の中に規定されており、難民保護とは相反する「外国人の出入国管理」という視点に基づく法律の中に位置づけられたことによって、審査機関の独立性の欠如や適正手続の不十分な保障、重すぎる立証責任など、多くの課題を抱えていました。このような状況を打開するため、韓国の難民支援NGOや弁護士、国会議員が協力し、2011年12月29日には、アジア地域で初となる独立した難民保護法が議員立法によって国会で可決されました。この法律は、弁護士や通訳人を付ける権利や家族統合の権利、申請中の生活保障、第三国定住による難民の受け入れなど、日本の法律では規定されていない条文が多く含まれており画期的なものです。

近年では、難民の認定率も、11%と日本の10倍以上で、難民保護の分野で進化を遂げています。日本と韓国の難民支援NGOは、約6年前から交流を続け、良好な協力関係を構築してきました。

米国における難民の受け入れ

米国は、長年にわたる難民受け入れの歴史があり、毎年5万人以上の難民を第三国定住として国内に迎え入れてきました。政府と難民支援NGOsの連携は深く、受け入れる難民の選定から入国前後の研修、定住支援にいたるまで、多様な協働の取り組みやプログラムが実施されています。それ以外に、個別に認定される難民は2万人以上、認定率は50%を超えています(ちなみに、日本では、2012年に難民認定された人数は18名、難民認定率は、一次申請・異議申し立てを合わせて0.56%と過去最低を記録しました)。これまでも、難民支援協会は、国際救援委員会(the International Rescue Committee [IRC])をはじめ米国の難民支援団体とは長年に渡り様々な形で協力関係を築いてきましたが、今回は韓国も入った3カ国の学び合い・連携によって、よりよい難民受け入れの在り方を追求したいということで、本プロジェクトに加わっていただくことになりました。

円卓会議の様子

円卓会議では、日本、韓国、米国のそれぞれの取り組みが各国代表から紹介された後に、難民の社会統合を考える上で大きなテーマである雇用と教育を中心に、積極的な意見交換が行われました。雇用については米国から、国内の経済状況悪化の影響で、難民の雇用先を見つけるのに時間がかかるようになってきている一方、難民は食肉業界やホテル産業で定着率が非常に高いことや、母国での資格(博士号、弁護士、医師等)が米国で活かさない現状を踏まえて、海外の資格再認定の簡易化を働きかけている現状が紹介されました。そして、連邦ならびに州政府、地域コミュニティ、ボランティアといった様々な関係者との協働が優

れた実践には欠かせないことが繰り返し言及されました。教育については、大人に対する就労前研修から、子どもへの教育、語学教育など多岐にわたる議論が展開され、日本からは、日本語の習得が遅れがちな子どもに対する「取り出し授業」の取り組みや、外国にルーツを持つ子どもたちを対象にした夜間の学習支援活動などが紹介されました。

その後、話題は、よりよい難民支援制度に向けた提言や働きかけの方法に発展しました。韓国からは、難民保護法制定の例を挙げながら、国内のみならず、国境を越えたネットワークと協力関係の重要性が強調されました。いずれの参加者からも、民間同士や官民といった多様なステークホルダー間の継続的な対話や連携が、よりよい政策と制度設計、そしてプログラム運営の鍵となることが確認され、会議は終了しました。



©難民支援協会

おわりに

円卓会議後は、韓国と米国のゲストを中心に、新宿区の学習支援プログラム、夜間中学校、難民コミュニティの訪問などを行い、日本の取り組みに直接触れていただく機会を設けました。そして、最後に日米韓の支援団体で会合を持ち、今回の東京訪問の振り返りを行うとともに、次に予定されている韓国と米国への訪問や、今後のプロジェクト運営の方向性について話し合いました。11月には、韓国のソウルを訪問し、韓国での取り組みの視察や政府機関を含む韓国の関係者との会合を持つ予定です。

東京で開催された円卓会議は、日本、韓国、米国の3カ国が、難民受け入れについて連携する貴重な契機となりました。会場を快くご提供いただいた日本福音ルーテル社団と、開会挨拶を引き受けてくださった同事務局長の森川博己さんに心より感謝申し上げます。



聖グレゴリオの家の本科生として学んでいた頃、リラ・プレカリアの研修を創設する準備の一環でグレゴリオ聖歌の講習会に参加されたキャロル・サック先生や1期生となられた方々にお会いし、初めて、ハープで祈りの歌を捧げる研修リラ・プレカリアの存在を知りました。18年前に帰天した母の看取りの際の魂の痛みを思い出し、ターミナル・ケアの場面では医療サイドの援助には限界があると感じていた自分は、藁にもすがら気持ちで研修への参加を待望しておりました。旧約聖書に記されたサウルを癒したダビデの豎琴のイメージにも重なり、ハープのスピリチュアルな響きに憧れ、念願かなってようやく3期生としての学びが許されました。

そして、2011年の夏、3期生としての実習に入る前でしたが、キャロル先生のリラ・プレカリアを紹介するプレゼンテーションが淀川キリスト教病院で開催されました。私も参加させていただき、臨床に出る怖さについて聞いていただいた当院のチャプレンから「未熟なままのあなたが派遣されること、それも神様の働きなのよ…」と励まされ、今でもそのお言葉を支えとし、ご奉仕させていただいております。

今年、夏の陽の眩しい季節でした。都

内の病院で闘病なさっていた純子さん、むさしの教会ゴスペルクワイヤでご活躍なさった女性です。彼女は病気を抱えられたままご郷里に戻られることを決心なさいました。お仲間たちが最後のお別れを、とお考えになられてリラ・プレカリアの働きも覚えて、私を呼んでくださることになりました。むさしの教会での「詩篇と歌の集い」を時々お手伝いさせていだいたご縁でしょうか…。治療の合い間のわずかの時間で、というご家族のご要望にお応えし、お仲間のおひとりでもある中山康子先生(リラ・プレカリア講師)にも祈っていただいて総勢5名でお部屋に伺いました。

2曲だったと思います。短かく美しいシンプルな曲を繰り返してゆっくりとハープを奏でながらささやくように歌いました。時計の針が示す時間はとても短いものでした。ご家族の終了を願うお言

葉に従って弾き終えましたが、ご本人はしばらく美しい表情で、まぶたを閉じたまま眠っていらっしゃるのかと思われるほどでした。やがて静かに口を開かれ、「いい気持ちで旅をしていました」と感想を述べてくださったのです。ご友人たちのお別れを惜しむ場に同席させていだきつつ、物理的な時空を超え、深い時の流れを共に過ごしました。確かに、イエス様が側にいて祈りを重ねてくださったと信じております。

今、純子さんは天国にいらっしゃるのですが、ご郷里での日々、繰り返しその時のハープの響きをお心に留めながら慰めを得られていたそうです。名演奏はできないと自覚している者ですが、いえ、だからこそ、この一期一会の恵みに深い感謝の念を覚えます。ご冥福をお祈りいたします。そして、純子さん、私もいつかお近くに参ります。それまで天国で一緒に歌っていてくださいね。



リラ・プレカリア第5期生募集 「ハープと歌で祈る」ボランティア養成

JELAでは、「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)」第5期研修講座の受講生を募集しています。リラ・プレカリアは、病床にある方や、さまざまな問題で悩み苦しむ方に、ハープと歌による祈りをお届けするボランティア養成プログラムです。

受講に際して、宗教、国籍、年齢などの制約はありませんが、講座全体がキリスト教を基礎としていることをご理解ください。プログラムは、聖書(主に詩編)、心理学、祈り、音楽の要素から成り立っています。

ハープと聞いて尻込みするかもしれませんが、初めから音楽的技量を備えた方を対象にした講座ではありません。リラ・プレカリアの実践に必要なハープや声楽の技能については、優秀な講師陣により指導いたします。

受講を希望される方は、2年間の研修に専心する決意と、毎日3時間以上の自習(ハープ・歌・自分の心と向き合う)が求められます。

リラ・プレカリアの働きに関心がある方、ハープによるボランティア奉仕をしてみたい方は、JELA事務局までご連絡ください。

■概要■

- ・研修期間: 2014年4月～2016年3月(2年間)
- ・内容: ベッドサイドでハープと歌を用いて祈る
ボランティア養成講座
- ・費用: 受講料18万円×5学期(計90万円)+入学金(10万円)
- ・募集定員: 5～10名
- ・問合せ/申込: 一般社団法人 日本福音ルーテル社団事務局(電話: 03-3447-1521)
- ・申込締切: 2013年12月14日(土) 当日消印有効



「Amazon」でのお買い物は JELA 経由で

JELA ニュース 30 号でお知らせしました通り、JELA のホームページ上に「Amazon」のリンクボタンがあります。(これをアフィリエイト広告といいます。) これまでに JELA 経由で 322 件のお買い物をいただき、それに対して 25,528 円の報酬(寄付金)が Amazon から得られています。皆さまのご協力を心より御礼申し上げます。

年末年始あるいは日常的に必要な物品のお買い物もぜひ、JELA ホームページを経由しての Amazon でお願いいた



します。皆様がお買い求めになった金額の約 3%が JELA への寄付となる仕組みです。お買い物をされた方の金銭的な負担はありませんのでご安心ください。

【お願い】書き損じハガキ・未使用切手等をお送り下さい

JELA では、皆さまのご家庭や会社に眠っている書き損じのハガキ、未使用の古い年賀ハガキや未使用の切手等を集めています。お送りいただいたものは、日本郵便で手数料を払って換金し、JELA の活



動のために有効利用させていただきま

す。少量でも古いものでも結構です。皆さまのご協力をお願いいたします。

送り先：一般社団法人 日本福音ルーテル社団 ハガキ・切手係
150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-20-26
TEL：03-3447-1521

カンボジアの貧困小学校に図書室と遊具を

カンボジア・ルーテル教会 (Lutheran Church in Cambodia =LCC) が、首都プノンペンの北西 85km にあるコンボンチュナン州クルス小学校に図書室や遊具を設置するために JELA に対して US 2,000 ドル(約 20 万円)の寄付を呼び掛けています。

クルスは人口約 7,000 人の村で、小学校の設備は同国の標準以下と評価されています。LCC では、図書室は児童のみならず、大人の利用も許可したい考えで、地域全体へ影響を与え、村人がキリスト教を受け入れやすくなるとしています。皆様のご協力をいただければ幸いです。

JELA への寄付は銀行からもできます

いつも JELA をご支援くださり、ありがとうございます。チャリティコンサート会場でのご寄付、郵便振替票でお送りいただくご寄付等、皆様の温かいご支援に感謝しています。寄付金のご送金には以下の銀行口座もご利用いただけますので、よろしくお願い申し上げます。

横浜銀行恵比寿支店普通6002037

一般社団法人日本福音ルーテル社団

(カナ：イッパンシャダンハウジン
ニホンフクインルーテルシャダン)

銀行経由でご送金いただいたご寄付は、特別のご指示がない限り、JELA のプログラム全体のために使用させていただきます。

今後ともご支援・ご協力をくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

(2013年6月1日～9月30日)

阿波田絹子、安藤淑子、五十嵐栄子、石川美可子、石川史志、市原周子、伊藤昭子、伊東節子、犬飼通之、植田春水、牛山三喜男、大塚真佐子、河瀬鈴子、神崎悦子、木村敦子、京谷信代、清宮正行・晶子・崇寛・瑞季、小泉先生を偲ぶ会、古庄理世、小菅可代、斉藤ひろみ、佐々木くみ子、杉浦りえ、鈴木光治・貴美子、鈴木やす、世界の子ども支援チャリティコンサート席上献金、関野和彦・信子、高尾堯、高田紀子、竹内潤子、富田園子、鳥飼勝隆・豊子、仲吉智子、那須幸、名取久子、西立野園子、西野みゆき、日本キリスト教会東北盲信徒会リラ・プレカリアセミナー参加者、日本基督教団鳴子教会リラ・プレカリアセミナー参加者、芳賀美江、萩雅子、萩原耕介、早瀬康平、樋川好美、藤原薫、古川博子、前川隆一、真名志輝雄、南節子、宮城県バプテスト協議会女性の集いリラ・プレカリアセミナー参加者、牟田青子、森河かよ子、八坂由貴子、山県順子、山田克子、山本一男、山本武子、山本了、渡邊聡、和田正廣、JELC市ヶ谷教会 教会祭参加者/高蔵寺教会/甲府教会/シオン教会/諏訪教会/下関教会/女性役員研修会参加者/玉名教会/名古屋めぐみ教会

以上 順不同・敬称略

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

編集余話

10 月横浜で、線路上に倒れていた男性を救うために踏切内に入った村田奈津恵さんが電車でひかれて死亡した。助かった男性とは面識がない模様。すぐに聖書の言葉が浮かんできた。「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」(ローマの信徒への手紙 5 章 8 節)だ。「罪人」とは、「神を無視して自分勝手な道を歩んでいる私たち」のことである。キリストは、こんな私たちを救う(= 罪を赦して神と和解させる)ために十字架にかかってくださった。その誕生を祝うのがクリスマスである。救われた男性が村田さんに感謝をおぼえるとき、彼女の死は意味を成すだろう。私たちはキリストの十字架に何を思うか。クリスマスは一人ひとりがそれ自分に問う季節でもある。(M)